

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25462312

研究課題名(和文) ヒト椎間板性腰痛における椎間板変性と神経侵入に対するプロスタノイドによる抑制機構

研究課題名(英文) Mechanism of the suppression of disc degeneration and innervation by prostanoid in human intervertebral disc cells.

研究代表者

鈴木 秀和 (Suzuki, Hidekazu)

東京医科大学・医学部・講師

研究者番号：40317871

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：椎間板性腰痛の分子機構として、細胞外基質分解酵素(MMP)による椎間板変性に伴い、神経線維が神経成長因子(NGF)依存的に椎間板内に侵入し疼痛感作が生じると考えられてきた。本研究ではヒト腰椎由来椎間板細胞を用いて臨床で腰痛治療に汎用される選択的COX-2阻害剤の効果を検討した。その結果、選択的COX-2阻害剤はMMPおよびNGF発現をむしろ増強させ、逆にPGE2はEP4受容体を介し、当該遺伝子発現を抑制することを見出した。さらに腰部脊柱管狭窄症に汎用されるPGE1においても同様の抑制効果が認められた。本研究成果は、腰痛に対する薬剤選択の際に考慮されるべき重要な基礎研究成果であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The molecular mechanism of developing low back pain is known as disc degeneration by MMP and following nerve innervation by NGF. The effect of selective COX-2 inhibitors, which is clinically used for the conservative treatment of low back pain, on NGF and MMP expression was investigated in human lumbar intervertebral disc (IVD) cells. IL-1-induced NGF and MMP expressions were enhanced by selective COX-2 inhibitors, on the other hand, these expressions were suppressed by PGE2, PGE1 and its derivative limaprost via EP4 receptor. Our findings would be of importance when choosing drugs for the conservative treatment of low back pain.

研究分野：脊椎脊髄外科

キーワード：椎間板性腰痛 椎間板変性 神経侵入 プロスタノイド

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、椎間板性腰痛発症の分子機構として、椎間板の組織変性に伴い、疼痛伝達をする神経線維が椎間板内側に侵入し、さらに疼痛感作が行われることが示唆されていた。また、この過程において椎間板の変性には細胞外基質分解酵素群が関与し、神経侵入および疼痛感作には神経成長因子(NGF)が重要な役割を担うことが示されていた。一方で、腰痛症に対して選択的 COX-2 阻害剤を含む非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)が用いられるが、同薬剤の細胞外基質分解酵素および NGF 発現に対する効果については不明であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、椎間板変性を背景とした慢性腰痛に対する選択的 COX-2 阻害剤の効果を解明すべく、細胞外基質分解酵素および NGF 発現について解析し、さらにその発現調節機構について、選択的 COX-2 阻害剤により抑制される prostaglandins に着目し解明を試み、慢性腰痛の予防および慢性腰痛に対する新たな薬学的治療の可能性について検討することである。

3. 研究の方法

(1) ヒト椎間板由来細胞の培養法の確立

椎間板細胞は関節軟骨細胞と類似し、単層培養により脱分化し、その性質が変化することが知られている。そこで、単層培養と alginate beads による 3 次元培養を試み、本研究に適した培養条件を確立する。

(2) ヒト椎間板細胞における細胞外基質分解酵素および NGF 発現に対する選択的 COX-2 阻害剤の効果

椎間板変性に関わる細胞外基質分解酵素として主にコラーゲン分解に関わる MMP-1, -3, -13 発現およびアグリカン分解に関わる ADAMTS4 および 5 発現に対する COX-2 阻害剤 (MS-398 および celecoxib) の効果を遺伝子およびタンパク質レベルで検討する。また、神経侵入に関わる NGF 発現に対する効果についても同様に解析する。

(3) Prostaglandins による NGF 発現調節機構の解明

COX-2 阻害剤により阻害される PGE2 およびその他の prostaglandins (PGI2, PGD2 および PGF2a) および PGE1 とその誘導体である limaprost の NGF 発現に対する効果を検討する。さらにその分子機構について PGE2 受容体 (EP1-4) に対する agonist および antagonist を用いて PGE2 および PGE1 による NGF 発現抑制に関わる prostaglandins 受容体の同定を試みる。

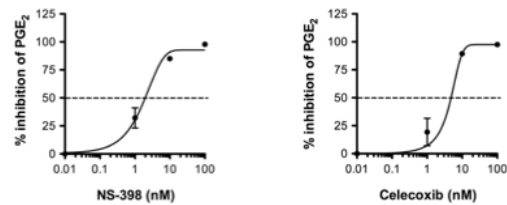
4. 研究成果

(1) ヒト椎間板細胞の培養方法の確立

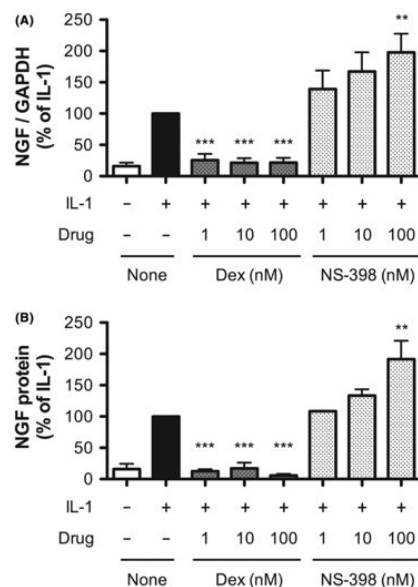
ヒト椎間板細胞を単層 (2 次元) または alginate beads 内 (3 次元) で培養し、IL-1 に対する応答性について MMP および NGF 発現を指標に検討した。その結果、MMPs および NGF 発現誘導に培養法の違いによる差異は認められなかった (結果省略)。そこで本研究は、より簡便な単層培養で行うこととした。

(2) ヒト椎間板細胞における選択的 COX-2 阻害剤の細胞外基質分解酵素および NGF 発現に対する効果

本研究に用いる選択的 COX-2 阻害剤として、基礎研究で汎用される NS-398 と臨床で汎用される celecoxib を用いることとした。研究に先立ちこれら薬剤の濃度を検討するため、IL-1 により誘導される PGE2 産生に対する阻害活性を指標とし実験を行った。その結果、NS-398 および celecoxib は、1-100 nM の範囲で PGE2 産生を濃度依存的に抑制することを確認した (IC50 of NS-398 and celecoxib; 2.4 nM and 4.2 nM, respectively) (下図)。

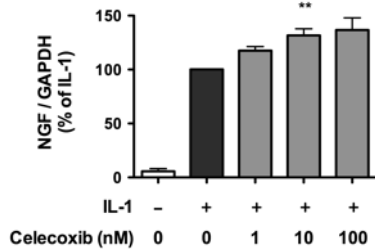


次に、IL-1 により誘導される NGF 発現に対する選択的 COX-2 阻害剤の効果について、強力な抗炎症効果を持つステロイド (dexamethasone) と比較検討した。その結果、IL-1 により誘導される NGF 発現は、ステロイ

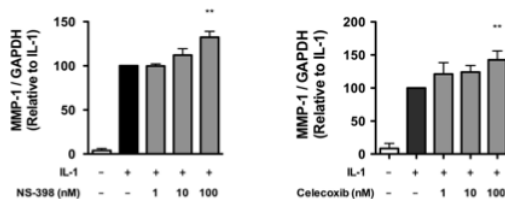


ドにより強力に抑制されたのに対し、選択的 COX-2 阻害剤である NS-398 はむしろ NGF 発現を遺伝子 (上図 A) およびタンパク質レベル (上図 B) で増強させた。

また、この作用は celecoxib 処理においても同様に観察された (下図)。

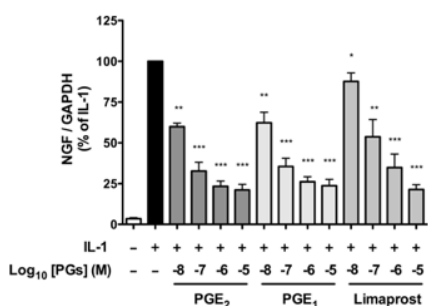


さらに、選択的 COX-2 阻害剤の MMP-1 および MMP-13 発現に対する効果について検討したところ、IL-1 により誘導される MMP-1 発現は、選択的 COX-2 阻害剤により増強され (下図)、MMP-13 発現においても同様の結果が認められた (結果省略)。

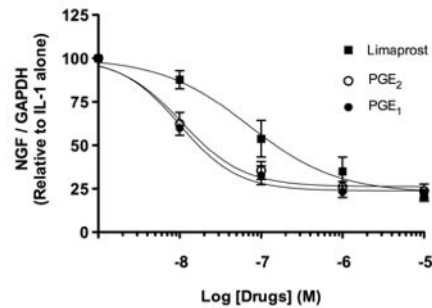


(3) Prostaglandin による NGF および細胞外基質分解酵素発現調節機構

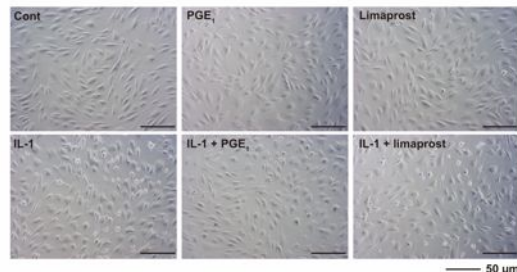
上記結果より、PGE₂ は元来炎症のメディエーターとして知られているが、NGF および MMP-1 発現に対しては抑制的作用している可能性が推察された。そこで、本培養系に外因性に PGE₂ を添加し、NGF 発現に対する PGE₂ の作用について検討した。一方、PGE₁ の構造類似化合物である limaprost は、腰部脊柱管狭窄症に汎用され、腰痛緩和効果も報告されている。そこで、PGE₁ および limaprost の NGF 発現に対する効果についても合わせて検討した。その結果、PGE₂ は濃度依存的に NGF 発現を抑制することが明らかとなった (下図)。また、この抑制効果は、PGE₁ および



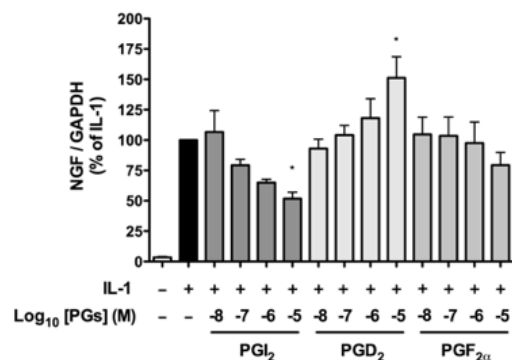
limaprost においても認められた。PGE₁, PGE₂ および limaprost の NGF 発現に対する IC₅₀ はそれぞれ、9.9 nM, 10.6 nM および 70.9 nM であった (下図)。



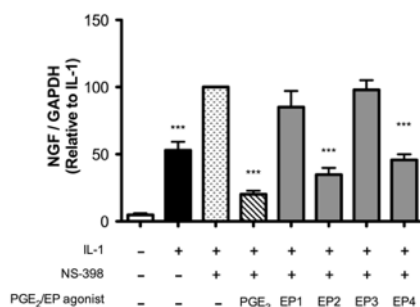
さらに、上記 PGE₁ および limaprost による NGF 発現抑制効果が、細胞毒性によるものか否かについて、光学顕微鏡下で観察したところ、明らかな細胞毒性は認められなかった (下図)。



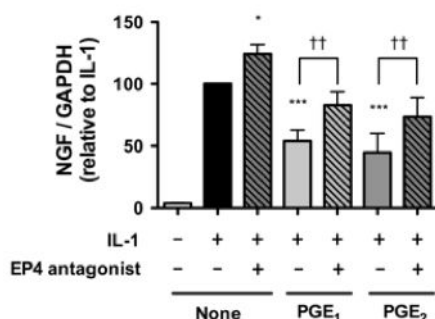
選択的 COX-2 阻害剤は、PGE₂ のみならず、アラキドン酸カスケードにおける COX-2 下流に位置する他の prostaglandin 群も同様に抑制することが知られている。そこで他の prostaglandin として、PGI₂, PGD₂ および PGF_{2α} についても同様に検討した。その結果、PGI₂ は NGF 発現に対して抑制的に作用したのに対し、PGD₂ は促進的に作用し、PGF_{2α} は影響を与えないことが判明し、prostaglandin による NGF 発現調節に対する効果は、prostaglandin の種類により異なることが明らかとなった (下図)。



PGE2によるNGF発現抑制の機序を解明すべく、PGE2の受容体であるEP1~EP4受容体に対するagonistを用い検討を行った。その結果、NS-398により増強されるNGF発現は、EP2およびEP4agonistによりPGE2同様抑制されることが明らかとなった。すなわちPGE2によるNGF発現抑制はEP2およびEP4受容体を介することが判明した。



さらに、PGE1によるNGF発現抑制の機序にEP4受容体が関与するか否かについてEP4 antagonistを添加することにより解明を試みた。その結果、EP4 antagonistであるL-161,982はPGE2およびPGE1によるNGF発現抑制を部分的に回復させた(下図)。このことからPGE1によるNGF発現抑制に一部EP4受容体が関与することが明らかとなった。



本研究成果により、PGE2は急性炎症および急性疼痛を惹起する炎症メディエーターであるが、組織変性に関わるMMP-1および神経侵入・疼痛感作に關与するNGFに対してはnegative feedback様に抑制的に制御するといった生理活性を有することが明らかとなった。また、腰部脊柱管狭窄症で汎用されるPGE1製剤であるlimaprostおよびPGE1においてもNGF発現抑制効果を有することも明らかとなり、この抑制作用は、既知の薬理作用に加え、同薬剤による腰痛緩和効果の作用機序の一端を担うと推察される。一方で、PGI2にはNGF抑制効果が認められたものの、PGD2は促進させ、PGF2aは影響を及ぼさないといったprostaglandinの種類によりNGF発現調節様式が異なることも明らかとなった。また、PGE2、PGE1によるNGF発現調節は、EP4受容

体を介することが判明した。

本研究は、腰痛治療の第一選択薬として推奨されている選択的COX-2阻害剤の漫然的な使用は、椎間板変性および神経侵入を促進させる可能性を示唆するものであり、同薬剤の使用法を再考させるものであると考えられる。さらにlimaprostによる腰痛緩和効果の機序としてEP4受容体を介したNGF発現抑制が関与すること考えられた。さらに選択的COX-2阻害剤とPGE1製剤を併用することで、椎間板変性および神経侵入の両者に対する抑制効果が期待され、今後、腰痛保存治療における新たな薬剤選択としての可能性を提唱するものであると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Kazuma Murata, Yasunobu Sawaji, Wuqikun Alimasi, Hidekazu Suzuki, Kenji Endo, Hidetoshi Tanaka, Makiko Yorifuji, Taiichi Kosaka, Takaaki Shishido, Kengo Yamamoto. "PGE1 attenuates IL-1b-induced NGF expression in human intervertebral disc cells" Spine, 2016, vol. 41(12), pp. E710-E716, DOI: 10.1097/BRS.0000000000001379, 査読有

Wuqikun Alimasi, Yasunobu Sawaji, Kenji Endo, Makiko Yorifuji, Hidekazu Suzuki, Taiichi Kosaka, Takaaki Shishido, and Kengo Yamamoto. "Regulation of nerve growth factor by anti-inflammatory drugs, a steroid, and a selective cyclooxygenase 2 inhibitor in human intervertebral disc cells stimulated with interleukin-1" Spine, 2013, vol. 38(17), pp.1466-1472, DOI: 10.1097/BRS.0b013e318294edb1, 査読有

[学会発表](計12件)

澤地恭昇, 村田寿馬, 鈴木秀和, 遠藤健司, 田中英俊, 山本謙吾 "PGE1によるMMP-1/-13とTIMP-3発現の相反的調節による椎間板変性保護効果" 第31回日本整形外科学会基礎学術集会, 2016年10月13日~2016年10月14日, 福岡国際会議場(福岡県福岡市)。

Yasunobu Sawaji, Hidekazu Suzuki, Kenji Endo, Hidetoshi Tanaka, Hirotsuke Nishimura, Taiichi Kosaka, Kengo Yamamoto. "Protective role of

prostaglandin E1 for disc degeneration by reciprocally regulating collagenases and their endogenous inhibitor TIMP-3 in human intervertebral disc cells.” The International Society for the Study of Lumbar Spine, 2016年5月16日～2016年5月20日, Singapore.

澤地恭昇, 村田寿馬, 鈴木秀和, 遠藤健司, 依藤麻紀子, 田中英俊, 小坂泰一, 山本謙吾 “プロスタグランジンによる椎間板変性制御機構の検討 ～ヒト椎間板細胞における MMP-1/-13 発現に着目して～” 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2016年4月14日～2016年4月16日, 幕張メッセ国際会議場 (千葉県千葉市) .

Yasunobu Sawaji, Hidekazu Suzuki, Kenji Endo, Hidetoshi Tanaka, Taiichi Kosaka, Kengo Yamamoto. “PGE2 negatively regulates NGF expression by inducing DUSP-1 in human intervertebral disc cells” International Society for the Study of Lumbar Spine, 2015年6月8日～2015年6月12日, San Francisco, CA (U.S.A.).

Makiko Yorifuji, Yasunobu Sawaji, Hidekazu Suzuki, Kenji Endo, Hidetoshi Tanaka, Taiichi Kosaka, Kengo Yamamoto. “PGE2 negatively regulates MMP-1 expression by inducing DUSP-1 in human intervertebral disc cells” International Society for the Study of Lumbar Spine, 2015年6月8日～2015年6月12日, San Francisco, CA (U.S.A.).

澤地恭昇, 村田寿馬, 鈴木秀和, 遠藤健司, 依藤麻紀子, 田中英俊, 小坂泰一, 山本謙吾 “椎間板性腰痛に関わる神経成長因子のプロスタグランジンによる発現制御機構” 第 44 回日本脊椎脊髄病学会, 2015年4月16日～2015年4月18日, 福岡国際会議場 (福岡県福岡市) .

村田寿馬, 澤地恭昇, 依藤麻紀子, 鈴木秀和, 遠藤健司, 小坂泰一, 山本謙吾 “ヒト椎間板性腰痛における神経成長因子発現調節の分子機構” 第 12 回整形外科痛みを語る会, 2014年6月28日～2014年6月29日, 翠香園ホテル(福岡県久留米市) .

村田寿馬, 澤地恭昇, 遠藤健司, ウチク

ン・アルマス, 依藤麻紀子, 西村浩輔, 鈴木秀和, 田中英俊, 小坂泰一, 山本謙吾 “椎間板細胞における神経成長因子発現に対する PGE1 の新規薬理作用” 第 6 回日本運動器疼痛学会, 2013年12月7日～2013年12月8日, 神戸国際会議場 (兵庫県神戸市) .

村田寿馬, 澤地恭昇, 遠藤健司, ウチクン・アルマス, 依藤麻紀子, 西村浩輔, 鈴木秀和, 田中英俊, 小坂泰一, 山本謙吾 “椎間板軟骨細胞における神経成長因子発現に対する PGE1 の新規薬理作用” 第 28 回日本整形外科基礎学術集会, 2013年10月17日～2013年10月18日, 幕張メッセ (千葉県千葉市) .

村田寿馬, 澤地恭昇, 遠藤健司, ウチクン・アルマス, 依藤麻紀子, 西村浩輔, 鈴木秀和, 田中英俊, 小坂泰一, 山本謙吾 “腰部脊柱管狭窄症における PGE1 の MMP/NGF の発現調節” 第 62 回東日本整形災害外科学会, 2013年9月19日～2013年9月21日, 軽井沢プリンスホテル (長野県北佐久郡) .

村田寿馬, 澤地恭昇, 遠藤健司, ウチクン・アルマス, 依藤麻紀子, 西村浩輔, 鈴木秀和, 田中英俊, 小坂泰一, 山本謙吾 “椎間板軟骨細胞における神経成長因子発現に対する PGE1 の薬理作用” 第 11 回整形外科痛みを語る会, 2013年7月6日～2013年7月7日, ホテルハマツ郡山 (福島県郡山市) .

Yasunobu Sawaji, Wuqikun Alimashi, Kenji Endo, Hidekazu Suzuki, Hidetoshi Tanaka, Kengo Yamamoto “A novel pharmacological action of prostaglandin E1 for intervertebral disc degeneration and innervation” International Society for the Study of Lumbar Spine, 2013年5月13日～2013年5月17日, Arizona (U.S.A.).

6 . 研究組織

(1)研究代表者

鈴木 秀和 (SUZUKI, Hidekazu)
東京医科大学・医学部・講師
研究者番号：40317871

(2)研究分担者

澤地 恭昇 (SAWAJI, Yasunobu)
東京医科大学・医学部・助教 (特任)
研究者番号：20571152

遠藤 健司 (ENDO, Kenji)
東京医科大学・医学部・講師

研究者番号：90266479

小坂 泰一 (KOSAKA, Taiichi)
東京医科大学・医学部・講師
研究者番号：10328213

山本 謙吾 (YAMAMOTO, Kengo)
東京医科大学・医学部・主任教授
研究者番号：10246316